

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 0790300099 | | |
| 法人名 | 医療法人社団 平成会 | | |
| 事業所名 | 健康倶楽部郡山 グループホーム「エスポワール」 | | |
| 所在地 | 福島県郡山市御前五丁目139番地 | | |
| 自己評価作成日 | 平成28年9月28日 | 評価結果市町村受理日 | 平成29年1月4日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------------|--|--|
| 評価機関名 | NPO法人福島県シルバーサービス振興会 | | |
| 所在地 | 〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3 | | |
| 訪問調査日 | 平成28年11月25日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・法人で研修体制を整えており、各職員のレベルに合わせた研修を受講し、スキルアップに繋げる機会を設けている。 ・お客様に安全で安心な生活を送って頂ける様にひやりはつとの分析や事故の対応策の評価、危険予知訓練などを行うことで事故予防・再発防止に努めている。 ・家族交流会やお祭りなど、ご家族様にも準備から一緒に入って頂いて、ご家族様・お客様と共に楽しめる行事を積極的に行っている。地域の方の参加を呼びかけるなど地域交流にも努めている。 ・看取りケアの経験を活かし、今できることは何かを考え、職員とお客様が笑顔になれるよう毎日の生活を1日1日、大切に過すことを心がけている。 |
|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 法人より事業運営及び介護サービス等に対してあらゆる情報の提供やバックアップがあり、職員研修の計画的な実施や、資格取得等の支援制度もあり、職員の資質向上に努めている。 2 経験豊富な職員が多く、自主性を尊重した声かけや見守り、ヒヤリハット・事故の検証分析など、全職員が利用者が安心して生活できるよう本人本位のケアに努めており、利用者の表情も明るく和やかである。 3 かかりつけ医の訪問診療を受け入れており、看護師も配置されている。利用者は常に適切な医療が受けられる体制となっており、利用者および家族の安心につながっている。 |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | <ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | <ol style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 職員で意見を出し合い理念を決めている。職員だけでなく、来所される方にも見て頂けるよう玄関に掲示し、お客様の想いが叶えられるように、また地域との交流がより深くなるよう努めている。 | 事業所では職員一人ひとりが事業所の現状を把握し、全職員で協議して、毎年「事業所理念」を見直している。今年は「地域住民の一員として地域交流を深めること」を掲げ、全職員が意識を共有して日々理念の実践に努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内会に入り地域のクリーン作戦に参加したり、日常的には散歩に出かけた際にお庭や畑を見せて頂き挨拶を交わしている。自事業所のイベントの案内をご近所に配布し参加を呼びかけている。 | 地域の行事には積極的に参加し、地域の人々と日常的に交流している。市主催の福祉フェスティバルでは認知症の人への理解や支援等の啓発に努めている。また、中学生の職場体験・高校生の傾聴ボランティア・大学の実習生等を受け入れており、「子ども110番」の事業所として指定されている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 人材育成の貢献として近くの高校生の傾聴ボランティアや大学の実習生の受け入れを行っている。また、中学校の職業体験の受け入れも行っている。認知症の方との関りについて継続的に伝えている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている | 運営推進会議では、お客様の日常の様子など写真等を使用し伝えている。避難訓練を見て頂いたり、行事の助言を頂くなどしサービスの向上に繋げている。 | 運営推進会議は併設する事業所との合同で定期的に開催されている。委員も各分野から広く選任され、発言内容も多種に渡っており、これら意見等は「職員会議」等で検討され運営やサービスに反映させている。議事録も詳細に記載されている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市役所に出向く機会には市の担当者の方と報告も兼ねて交流している。定期的に介護サービス相談員が来所し、サービスについて意見交換を行っている。また市主催の福祉フェスティバルに毎年参加して、グループホームのサービスについて伝えている。 | 行政の担当者とは事業所の現状や課題等について日頃から連絡を密にして協力関係を築いている。また、行政職員、介護サービス相談員、事業所の三者会議を開催しており、常に情報交換をしている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束の勉強会を実施し、身体拘束が引き起こす弊害についても意識し日々のケアに努めている。言葉による行動制限もないよう職員間で意識して努めている。 | 事業所では職員全員が年1回以上、「身体拘束をしないケア」や「言葉による拘束のないケア」について研修を開催し、意識の共有を図り日々のケアで実践している。日中玄関の施錠はなく職員の見守りで対応している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 勉強会を行い「不適切なケア」が虐待に繋がることを意識し、不適切ケアがないよう職員同士声をかけあい、協力し虐待防止に努めている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 法人内研修で介護保険制度について勉強会を行っている。成年後見制度を活用されているお客様もあり支援を行っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | ご利用開始前や介護保険法改定による料金改正時には重要事項説明書や契約書を用いて説明を十分に行い理解を得ている。入居後も不安やわからないことがあればその都度対応行っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 法人で毎年1回アンケート調査を行い、ご意見やご要望を頂き改善に繋げている。頂いたご意見や改善策を掲示している。また、日々の面会時等になんでも言って頂ける雰囲気づくりを行っている。 | 日頃からケアを通して利用者の要望を把握しており、また毎月利用者会議を開催して要望を伺う機会を作っている。家族からは「家族アンケート」や年3回開催の家族交流会等で意見の把握をしており、「職員会議」で検討し運営に反映させている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 定期的に行っている部門会議や職員会議、昼のミーティングで意見や要望を聞き対応している。必要時には法人の上司に報告している。 | 管理者を中心に職員間のコミュニケーションが円滑に図られており、職員はいつでも何でも言える環境となっている。職員からの意見は「職員会議」等で検討され日々のケアに反映されている。職員の意見は全て法人に上申されている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の資格取得に向けた支援を行ったり、職員個々の業務目標を設定し向上心を持って働ける環境づくりを行っている。勤務に関しては毎月職員のお休みの希望を聞き反映させている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内での階層別研修に参加し、ケアの向上に繋げている。また、毎月の職員会議では勉強会を行っている。実務者研修としてKOYAMACollegeも法人で実施している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム協議会に入会し、管理者は地区の情報交換会に参加している。法人内では研修や行事のお手伝いなどを通して交流を図っている。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前に実態調査等を通してご本人やご家族様の意見を聞き不安や要望などをカンファレンス等で共有し、安心して過して頂けるようケアプランに反映し取り組んでいる。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | お申し込み時や実態調査時などにご家族様の不安や困りごと、要望などを伺っている。伺ったご意見を入居後のサービスに反映させている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談内容からどのような支援が必要かケアマネを中心に見極め、支援に繋げている。また相談の内容によっては他の介護サービスや形態などの説明も行っている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | お客様同士と一緒に協力しあって生活レク等行う際、難しい部分を職員がサポートを行っている。お客様から職員へ指導を頂いたり、お客様同士教え合ったりし共に支え合い過ごしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時や毎月の広報誌にて日常のご様子をお伝えし情報の共有を行っている。また、誕生日会やお祭り、家族交流会では準備より一緒にご参加頂くなどし、一緒に過せる時間を作っている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ご家族様と協力しながら、買い物や食事、お墓参り、お孫様の運動会の見学など今までも出かけていた場所へ変わらず出かけられるよう努めている。友人や知人の面会の際にも居室にてゆっくり過して頂けるようにしている。 | 家族の協力を得ながら、買い物や食事などなじみの場所に出かけられるように支援している。年数回、自宅訪問をしている利用者もいる。訪問パン屋さんや訪問理美容院の受け入れをし新しい馴染みの関係を構築している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | お客様同士が心地よく、楽しく過ごせるよう席の配慮をしたり、一緒に教え合いながらレク活動を行ったりと共に関わり合い、支え合いながら過ごしている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院となり契約終了になった場合でも、時々面会に行ったり、ご家族様のご相談に乗るなどの関係を断ち切らない関わりを行っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | お客様会議を行い意向や要望の聞き取りを行い日常の支援に繋げている。日常の会話を通してやご家族様に伺ったりし、本人の意向を探りカンファレンスや申し送りで職員間で共有してケアに繋げている。 | 居室担当者制となっており、日常のケアの中で些細なしぐさや言葉などから把握している。把握した意向等はカンファレンスや申し送りで職員間で共有している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご本人様やご家族様から今までの生活のご様子やお好きだったことを伺い、職員間で共有し継続できるよう努めている。また、以前利用していた事業所から情報を頂きそれまで行っていたことを現在の生活に活かしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 24時間を通して生活リズムの把握に努めている。申し送り議事録や生活表に様子を記載し、それを確認することで現状の把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 居室担当者を中心に日々の関わりの中でご本人の意見や想いを伺いプランに反映させている。ご家族様にもケアマネが中心となりご意見を伺いカンファレンスで共有し、ケアプラン・モニタリングに活かしている。 | 介護計画は定期的に本人の状態や意向を把握し、「モニタリングシート」で利用者本人の変化やサービス状況をチェックし、カンファレンスを行い現状に即した介護計画を作成している。利用者の状態に変更があればその都度見直しをしている。なお、医療的なケアが必要な場合は看護師も参加し計画に意見を反映させている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ケアプランに沿ったケアを実践し、電子カルテや申し送り議事録へ様子や気づきを記載し情報の共有を行っている。カンファレンス時には、職員で意見を出し合い介護計画の見直しに活かしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | お客様の状態に合わせて、ご家族様と協力し病院の受診や送迎等行っている。外出、外泊等の支援も柔軟に行っている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域のボランティアの要請や希望される方には訪問理容や訪問マッサージの方に来て頂く等し、生活に楽しみができるよう支援している。また地域の図書館や公園を積極的に利用している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ご本人様やご家族様が希望する医療機関で適切な医療が受けられるように支援している。通院が困難になった場合は、ご家族様と話し合い訪問診療に来て頂いている方もいる。日常生活の様子をご報告するなど医師との連携に努めている。 | 家族が付添いかかりつけ医の受診を支援しており、希望により訪問診療も受け入れている。受診の際には状況を記載した連絡票を作成し、受診後は家族から報告を受け、受診記録表に記載して職員間で情報を共有している。訪問診療を受けている利用者については、その都度、結果を家族に伝えている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | お客様の状態変化時や気になることがあった際には看護師へ報告し確認して頂いている。また、夜間急変時にも看護師の指示をすぐに仰げる連絡体制がとれている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には医療機関やご家族様と連絡をこまめにとり、情報の共有に努めている。入院中の面会もできる限り行っており、ご家族様の希望があればムンテラに同席させていただく等の連携を図っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 契約時に重度化・看取りに関する指針の説明を行い同意を頂いている。状態の悪化があり受診に行くことが困難な場合はご家族様の希望を伺い訪問診療への切り替えを行い、終末期への体制づくりを行っている。 | 「重度化・看取りに関する指針」は策定されており、利用時に利用者・家族に書面で説明し同意書を取り交わしている。終末期の対応については家族の希望により柔軟に対応することとしている。全職員が利用者の状況を十分理解して看取りを実践している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時の対応の勉強会を行い、実践力が身につくよう努めている。また、緊急時対応マニュアルもあり、マニュアルに沿って対応できるよう確認を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年間計画を立て毎月防災訓練を行っている。緊急連絡網の連絡訓練や水害を想定した訓練なども行っている。毎年秋には、地域の消防署と運営推進会議のメンバーの方と合同の訓練を行い、助言等頂いている。 | 消防署立ち合いの防災訓練には運営推進委員が参加している。事業所独自の訓練は夜間想定地震、水害、通報訓練、伝達訓練等を毎月実施しており、記録も残されている。災害時の非常食、衛生品、コンロ、発電機、拡声器等も備えている。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | プライバシーポリシーや接遇についての勉強会を行い現場のケアに活かしている。また、お客様の気持ちを尊重して無理に行ってしまうことなく、自己決定ができる声かけを心がけている。 | 法人のマニュアルを基に職員が利用者一人ひとりを尊重し、声かけやケアに当たっている。利用者の個人情報は施錠可能なキャビネットに保管している。事業所だよりに利用する写真等については利用者および家族から同意を得ている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | お客様会議の中で、お客様の意見や要望を伺ったり、個別でお話しの中で聞き取りを行っている。衣類やお茶菓子を選ぶ際なども自己決定できるよう努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | お客様それぞれのペースでお好きな場所で過せるよう支援している。起床時間や就寝時間も個人のペースに合わせて対応している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 毎日の洋服をご自分で選んで頂いたり、入浴後に化粧水をつけ、お化粧されたりとおしゃれを楽しんでいる。パーマやカラーも希望に応じてされている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている | 食材の下準備や盛り付け、片付けなどできることを一緒に行い、出来上がった食事は一緒にテーブルを囲み楽しく食事をしている。お一人おひとりにお好きなものを伺いメニューに取り入れ喜ばれている。 | 献立表は法人栄養士が作成し、利用者の希望により調整している。食材は地元商店から購入したものを事業所で調理し、配膳や盛り付け等は利用者の状態により共同で行っている。また、行事食も多く実施しており、利用者の楽しみになっている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事が低下しているお客様にはお好きなものや召し上がられるもの、または栄養補助食品などをおだしている。水分の飲用を好まれない方に関してもお好きなものやゼリーやようかんにし摂って頂くなど工夫を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後の口腔ケアを声かけ促し、ご本人様の出来る所は行って頂き、できない部分のお手伝いを行っている。その方の状態に応じて、義歯洗浄剤の使用を介助するなどし口腔内の清潔保持に努めている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | すべてのお客様がトイレで排泄されている。パットやリハビリパンツの使用を減らせるよう、排泄パターンの把握に努めタイミングを見て介助を行うことで快適に過せるよう支援している。 | 個々の「排泄チェック表」を活用し、利用者の仕草や時間などを見極めトイレでの排泄を誘導している。現在オムツ利用者はいない。羞恥心にも配慮し、自立排泄後、職員はトイレのドアの外で待機しながら支援している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便のパターンを把握した上で、乳製品を摂って頂いたり、運動や腹部マッサージ等もやっている。便秘にならないように水分の摂取量にも注意している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 体調を確認した上で、入浴にお誘い希望の時間や希望の湯温でゆっくりと入浴して頂けるよう配慮している。入浴の拒否が見られる方には楽しい気分で入浴できるよう音楽をかけたり、一緒に入るなどの工夫もやっている。 | 入浴は利用者の希望により支援している。湯は1回ごとに入れ替えている。入浴拒否者には担当者や話題などを変えながら誘導している。状態により入浴できない利用者には足湯・シャワー浴や清拭で対応している。好みの入浴剤を使用する利用者もいる。季節感のあるゆず湯や菖蒲湯等も取り入れている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中帯は活発に活動して頂き、夜間はゆっくり休んで頂いている。生活習慣で日中も休みたいと希望のある方に関しては、居室やソファで休んで頂いている。季節ごとの寝具の交換を行い気分良く休んで頂けるよう配慮している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 職員がお客様の内服している薬の効果や副作用の把握に努めている。確実に内服して頂けるよう介助を行ったり、状態変化等ないか観察を行っている。また、服薬方法を一覧化しそれに沿って服薬介助を行っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 日々の生活の中で役割りが持てるよう、お客様それぞれができることや、今までの生活で行ってきたことを把握し、ケアプランに立案している。楽しく行えるよう実施時には感謝の言葉を伝えるなどしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 天気の良い日は散歩にでかけている。また、希望に応じて図書館やドライブなどにも出かけている。日常的に行くことができない場所には、ご家族様の協力を得て「希叶えますツアー」として行っている。 | 好天時には事業所周辺の散歩を楽しんでいる。季節ごとに花見・紅葉狩り等のドライブもある。月2回図書館に出かけ、本を借りて事業所で読書を楽しんでいる利用者もいる。また、「希叶えますツアー」と銘打って利用者の希望を聞き、家族の協力を得て墓参りや外食等の支援をしている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご家族様、ご本人様のご希望で、小額の金額ではあるが、ご自分で管理している方もおり、移動パン屋さんでの買い物などでご自分でお支払いし買い物を楽しまれている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話等の希望がある時には、相手のご都合も確認しながらやりとりができるよう支援している。定期的にご家族様から電話がかかってくる方もおり楽しくお話されている。職員が家族へ連絡した際もご本人様と代わりお話しして頂いている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節や昔ながらの行事等が感じられるよう、リビングやトイレの装飾を行っている。温度・湿度の調整を行い、体調を崩すことなく過せるよう注意している。まぶしいとおっしゃる方もいる為、カーテンの調整にも注意している。 | 共用空間は広く、小グループで過ごせるよう椅子とテーブルが配置され、ソファコーナーも多く、前面ガラス戸で開放的な共用空間となっている。壁には利用者の生活状況の写真や季節感溢れる作品が飾られ和みのエリアになっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | お客様同士会話を楽しまれたり、テレビを見たり趣味活動を行ったりとそれぞれが思い思いの場所でお好みに過せるよう配慮している。お部屋でお好きな読書をするなど、お客様の希望に合わせて過していただいている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている | 作成した作品を飾ったり、ご家族様の写真をいつでも見れるよう飾ったりと心地よく過して頂けるよう環境をつくっている。家具の配置などは安全面での配慮も行っている。できる限りご本人様が使用していたなじみの物を持って来て頂けるよう入居時にはお願いしている。 | 居室には家具調ベッド・エアコン・換気扇・洗面台・箆笥・クローゼットが標準装備されており、利用者はテレビ・椅子・テーブルなどを自由に持ち込み居心地の良い居室となっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | お客様それぞれの動線等も考慮した座席にしている。「できること」「わかること」の見極めを行い自立した生活が送れるよう職員間で情報を共有し見守り等のケアを行っている。 | | |